



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要							
建物名称	静岡研修所計画		BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度							
重点項目	得点*/満点		取組み度			評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2	/5				ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.2	/5				ふつつ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3	/5				ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0	/5				ふつつ	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上		ふつつ 3 点以上	
						がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.2	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)				
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ②ロールスクリーン・庇による屋光制御 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) 特になし ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫躯体と仕上材の分離が容易である ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 特になし 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 屋光利用設備 ③ 屋光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)			
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰耐震クラス:Aクラス ⑰通信手段の多様化、精密機器の地下設置回避等 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)			
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 特になし ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 特になし 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑲ ㉑	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)				
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) 特になし ■敷地外環境対策 (⑳持続可能な森林から産出された木材/㉓温熱環境悪化の改善) 特になし 	Q-3 1 ㉓ 2 ㉓ 3 3.2 ⑥ LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	㉓ 生物環境の保全と創出 ㉓ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善		

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 評価版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	静岡研修所計画	階数	地上3F 地下1F
建設地	—	構造	RC造
用途地域	—	平均居住人員	— 人
地域区分	6地域	年間使用時間	— 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	— 予定	評価の実施日	2025年6月27日
敷地面積	13,800 m ²	作成者	—
建築面積	1,188 m ²	確認日	—
延床面積	3,583 m ²	確認者	—

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (46 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 84%

③上記+②以外の: 84%

④上記+: 84%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健): 2.1, 4(教育): 1.5, 5(ジェンダー): 1.8, 6(水・衛生): 1.8, 7(エネルギー): 1.9, 8(経済・雇用): 2.1, 9(イノベーション): 1.8, 11(都市): 1.8, 12(生産・消費): 2.1, 13(気候変動): 2.0, 15(陸上資源): 1.4, 17(実施手段): 2.2

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.0

音環境: 3.0, 温熱環境: 3.0, 光・視環境: 3.0, 空気質環境: 3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

機能性: 3.6, 耐用性: 3.0, 対応性: 3.1

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.0

生物環境: 3.0, まちなみ: 3.0, 地域性: 3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.2

建物外皮の熱負荷: 4.0, 自然エネルギー: 3.0, 設備システ: 3.0, 効率的: 3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

水資源: 3.0, 非再生材料の使用削減: 3.4, 汚染物質回避: 3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

地球温暖化: 3.6, 地域環境: 3.0, 周辺環境: 3.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
・これはCASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果です。 ・静岡県に建設される事務所・寄宿舎である。		
Q1 室内環境 開口部にはロールスクリーンを設置し、グレアを制御することで快適な居住空間を図っている。	Q2 サービス性能 階高を高く確保することで、設備の更新性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内緑化により、緑の量の確保に配慮している。
LR1 エネルギー 断熱性の高い材料を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上材の分離が容易であり、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。	LR3 敷地外環境 広告物照明はない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される